なエントロピーの増加が起こった，あるいはブラックホールには莫大なエントロピーが付随しているとみなせるのである．

ブラックホールのエントロピーは，さらにブラックホールが熱輻射を出して蒸発するというホーキングの大発見につながっていく．蒸発によってブラックホールは跡形もなく無くなるのではないかと考えられている．もしそうなら「毛が 3 本」定理の帰結は，無すなわち「毛無し」状態ということになる．

旧ソ連見たまま

石　川　圭　介
金属材料技術研究所

“アエロフロートは健在”

6 月 8 日から，ウクライナ共和国キエフ市で開催された国際低温工学・低温材料会議に出席するため，旧ソ連邦を訪れた時の経験を述べさせて頂きます．

1 時間遅れで成田を飛び立った，イリューシン 62 の機内はなんとも狭い．機内は，ジャンボ機とちがい，映画も音楽も有りません．従ってエアロビックスも強制されることはありませんでした．アエロフロートは路線距離，保有航空機数で世界最大の航空会社だそうです。しかも，事故らしい事故を起こしたことが無いのは，軍人上がりの腕利きのパイロットが操縦しているからだそうです。その証拠でもあるかのように，決して立派とは言えない機内設備，エンジンの騒音にもかかわらず，離陸，着陸の不安は少なかった．ヨーロッパへ経済的な旅をされる方には如何でしょうか．

“シェレメチボ着，ヴノコボ発”

モスクワへの国際線は，シェレメチボⅡに到着する．十数年前通過客として経験した時は，銃を持った兵士が居て印象はよくなかった．今回は兵士の姿もなく至って簡単な通関であったが，建物の内部の暗いこと，汚いことには驚かされた．その上，白タクの客引きの多いこと，これもペレストロイカの結果だろうか。ほとんどのタクシーのフロントガラスにひびが入っており，なおかつメーターも動かないものが多い．実際料金は，ドル立てで，交渉しだいですからメーターが故障していてもなんら問題はありません。

モスクワをはさんで，反対側にあるキエフへの飛行機の出るヴノコボ空港は，かつては国内線用であったが，ウクライナ共和国が独立したため，国際線の空港に急きょ変わったらしく，国際線とは書いてあるが，アナウンスは全てロシア語，何を聞いてもロシア語，しかもチェックインではチケットは取り上げられた上，搭乗券はなく不安のままじっと待つのみ．ロビーの客が移動するのを見て自分の飛行機を確かめるため聞きまくるが，オーバーブッキングは日常のことと聞いていたので，席に座れるまで不安は尽きませんでした．

“ウクライナは別の国”

どうやら機上の人になり，1 時間余でキエフのボリスポール空港に着陸，飛行機から滑走路に直に降ろされた．すぐ側を，離陸する飛行機が通っていく．旧ソ連邦からの乗客には通関のチェックはない，空港の外にはじき出された感じである．しかし，旧ソ連邦以外の西側からの客はパスポートのチェックがある．ウクライナのビザはそこで発行され 50 ドル徴収される．現在ウクライナは，公式の通貨を持っていないため，クーポンが代用に使われている．クーポンは貨幣でないためその価値は不安定であり，交換率もまちまちで（闇が一番得），番号も，発行先も記されていない．しかも，自国で印刷されて無く，フランスからの輸入だそうです．

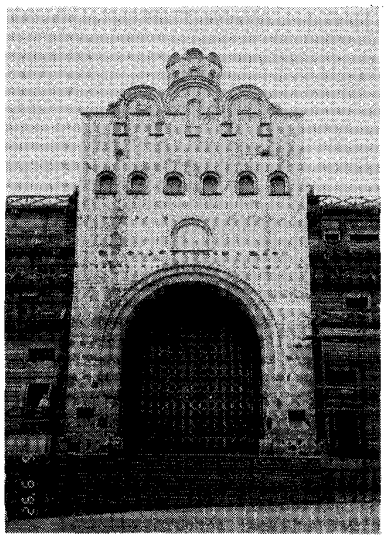
写真 1　ウクライナ共和国のクーポン券（単位なし）

“キエフの黄金の門”（写真 2）

キエフはロシア発祥の地であり，京都と姉妹都市の古都である．街はマロニエとポプラの並木がどこまでも続いていて，今はマロニエの綿毛が街中に飛び交っていた．道路，建物等街のインフラストラクチャーは立派であるが，手入れに手が回らないようである．しかし，早朝には散水車が街の汚れを洗い流していくため，早朝の散歩は爽快であった．キエフを有名にしているものとして，キエフの原点である黄金の門がある．ムソルグスキーはどの絵を見たのか知りませんが現在の門は再建されたもので，それほどのことはありませんでしたが，入場料が 2（円）とは驚きました．お金のことついでに，地下鉄，バスは 1/2（円）でした．

“いまチェルノブイリは”

キエフを再度有名にした事件としてチェルノブイリの事故があります．チェルノブイリは，ドニエプル河に沿ってキエフの北，200 km 程のところです．キエフか



(写真 2)

らは望むべき距離ではありませんが，会議中に見学会があるとのことで期待をしていましたが中止になりました。地元の人の話では相当の範囲にわたって現在もなお閉鎖されているとのことでした．しかし，勇敢な日本人のグループは独自にタクシーを雇って，チェルノブイリ行を敢行したが途中で当局に差し止められたそうです．今でも地下汚染が続いているようで，水は飲まないようにと言われていました．

“国際会議とパトーンの人々”

国際会議は，パトーン溶接研究所が担当して開催された．ウクライナとロシアは黒海艦隊の帰属をめぐって対立しているため，ロシア人の出席が少なく，多くの報告が取り消しになった．開会式に掲げられていた国旗の数を数えたところ 26 あったが，なんら報告がないし，確かめもしなかったので，詳しいことは分かりませんでした．しかし，日本人は 20 人程出席し，それぞれの任務を忠実に努めていたと言えます．大ざっぱな印象として，パトーンの人の大半はこの様な経験ははじめてらしく，混乱した運営が各所に見られました．また，会議の共通語は英語でありましたが，ロシア語での発表もあり，その際には露英の通訳があり，従って発表時間は自動的に 2 倍になってしまい，スケジュールは乱れに乱れてしまいました．とにかく，多くの問題がありましたが，パトーンの人の献身的な協力に感謝し，精一杯会議を堪能してきました．

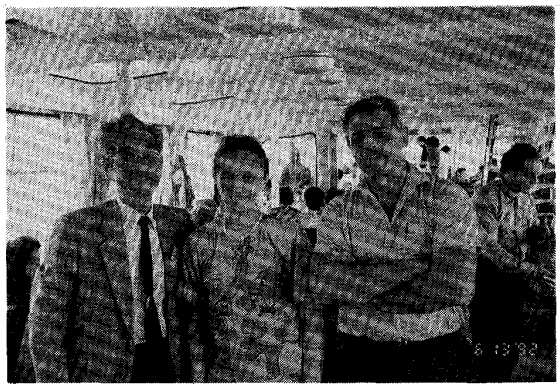


写真 3　左から著者，国際会議秘書のロクテヴァさんと委員長のユシュチェンコ教授

“キャビアを求めて”

世界に幾つの珍味があるか知りませんが，日本では非常識な値段が付けられているキャビアは，どこにあるか街を探してみました．彼等はキャビアとは言わずイクラといいます，イクラとは魚の卵のことで，鮭のも蝶鮫のも同じです．それが，ホテルと眼と鼻の先のスーパーのショウウインドウにありました．それは日本で見るのとは異なり信じられない大きさでした．そこで，試食をしてみようとなりましたが，経験の乏しさが結論を曖昧にしましたが，間違いなかろうということにしました．後で分ったことですが，キャビアは 3 種類あり，それぞれ蝶鮫の種類が違うとのことで，キャビアには違いないということでした．しかし，キャビアは輸出品であり，自由市場にしかなく，品数も少なかった．値段も信じられない程の格安でした．

“名物料理の味は”

ウクライナ名物は，ボルシチ，ヴァレーニキ，鳥のカツレツと案内書に書いてあります．そこで早速，試してみました．結果は，名物に……でした．

街にはレストランが少ない上，室内は暗く，決して清潔とはいえないところでの味は一層複雑なものでした．食べ物一般について，期待はしていませんでしたが二度と同じものを注文する気にはなりませんでした．飲物は，ビール，コーラ，なぜかファンタ，コーヒー，ワイン，それと炭酸入りの水．中で白ワインだけは癖がなくいけました．その他は，喉の渇きを癒すためにあるとみなしたほうがよいようです．

“モスクワの自由市場”

帰りにモスクワでの乗り継ぎに時間があったので，再びモスクワ市内の見物をしました．丁度土曜日であったので，アルバート街に延々と続く青空マーケットは，大勢の人出で賑わっていました．大半の店は，マトリョーナをはじめとするお土産やですが，中に混じって，テレビで見たような，レーニンの肖像を描いた旗，軍服，勲章が無造作に並べられていました．この様な物を誰が買うのか見ていましたが，地元の人は買う気配がありませんでした．

混乱の続く，ロシア，ウクライナ両国を回ってきましたが，先が見えないにもかかわらず，治安の良さ，教会のミサに集まっている人の真剣な眼差し，ゆとりのある街造り，広大な土地等を見ることができたのは，歴史の実体験でした．